

号	西暦	特集	団体紹介（国内）
1	1993／秋	全国の会から社団法人へ／あの時-そして未来へ	知床100平方メートル運動
		英国コーエン・プロジェクト体験記	財団法人グリーントラストうつのみや
2	1994／春	キナシベツ湿原-協会第1号の保存契約締結地	財団法人埼玉県生態系保護協会
		ナショナル・トラスト活動団体調査1993	
3	1994／夏	寄稿 協会への提言 瀬田信哉 漆畑信昭	財団法人柿田川みどりのトラスト
		スコットランド第5回国際建造物保存会議報告	
4	1994／秋	小原家物語 石川忠臣	小網代の森を守る会
		ナショナル・トラスト活動における歴史的環境ということ	
5	1995／新春	ワークキャンプ報告 ベンチャー・ウィズ・ジャパン'94／キナシベツ湿原	記載無し
6	1995／盛夏	環境教育とナショナル・トラスト 鹿児島五大石橋の流失と破壊	財団法人天神崎の自然を大切にする会
7	1996／陽春	ナショナル・トラスト法制の展望	記載無し
		ワークキャンプ報告	
8	1996／盛夏	都市の相続を考える。保全緑地と歴史環境	赤目の里山を育てる会
		第2回東アジア国立公園・保護地域会議in釧路	軽井沢ナショナルトラスト
		北海道ナショナル・トラスト交流会／エクスカーション	富士山ナショナル・トラスト
9	1997／陽春	岩垂寿喜男前環境庁長官を囲んで 環境行政の現状と展望	記載無し
		ワークキャンプ報告	
10	1997／盛夏	知床 20年を振り返る。そして未来へ-	グリーンボランティアクラブ・阿漕浦友の会
		里山と雑木林 その保全管理の現場から	関西ナショナル・トラスト協会
11	1998／陽春	ザ・ナショナル・トラストと、新世紀への保全基金	記載無し
		NPOの魅力ある事業展開とは	
12	1998／初冬	伊勢ナショナル・トラスト 神苑整備のために展開された明治の募金運動	財団法人妻籠を愛する会
		第8回ナショナル・トラスト国際会議inプエルトリコ	
13	1999／陽春	NPO事情-米国編その1 ボルティモア市の環境保全とNPO	財団法人おおのじょう緑のトラスト協会
		城塞都市鎌倉は世界遺産をめざす	財団法人阿蘇グリーンストック
14	1999／初冬	台頭する勧告の環境運動	蔵王のブナと水を守る会
		多摩丘陵～三浦半島 自然ふれあい月間 報告 森、海、人をつなごう	
15	2000／陽春	トラスト団体にとってのNPO法人取得の意義と税制優遇	真駒内 芸術の森 緑の回廊基金
		NPO事情-米国編その2 自然環境保全に見るパートナーシップ	
16	2001／春	農地とトラスト	中道志川トラスト協会
		エーコン・ホリデイズ・ジャパン2000	
17	2002／新春	総合的学習とナショナル・トラスト	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会
		ナショナル・トラスト『創世記』連載第1回	
18	2003／新春	ナショナル・トラスト 勉強会の報告	オオタカの森
		かくて広町は残った。	
19	2004／盛夏	環境教育推進法とナショナル・トラスト運動の新展開	記載無し
20	2005／盛夏	ウォーキングで環境を守ろう	記載無し
		住民参加の緑地づくりとその運営 すみれば自然庭園物語	
21	2006	韓国でナショナル・トラスト法制定される。	特定非営利活動法人 阿蘇花野協会
		自然と文化遺産保全の新しい転機となる「国民信託法」	

◎巻頭インタビュー

市場経済による環境の変化が先住民の暮らしを圧迫している。

関野吉晴さん



プロフィール／せきの・よしはる。探検家。医師。武蔵野美術大学教授（文化人類学）。1949年、東京都墨田区生まれ。一橋大学法学部在学中に探検部を創設し1971年アマゾン全域踏査隊長として1年間の南米遠征。その後20年間に32回、南米への旅を続ける。その間、現地での医療の必要性を感じ横浜市立大学医学部に入学し外科医師となる。1993年からは、アフリカで誕生した人類がユーラシア大陸を通過してアメリカ大陸まで拡散していったおよそ5万3000キロの行程を、自らの腕力と脚力だけを頼りに進行する旅「グレートジャーニー」を始める。足かけ10年の歳月をかけ、2002年、人類誕生の地とされるタンザニア・ラエトリにゴールした。1999年植村直己冒険賞受賞。近著に「グレートジャーニー全記録」全2巻（毎日新聞社）。

——南米からユーラシア、アフリカと世界のさまざまな辺境に行かれました。先住民に危機が迫っているんです。パタゴニアのウィジチエ族はかつてヨーロッパからの開拓民に抹殺され、今は南緯四〇度近くにあるチロエ島にしか住んでいません。海で魚介類を採って森で薪を手に入れて暮らしている。本来、そこは彼ら先住民の森であり彼らの海なだけ、軍事政権の時に養殖場が許可されたんです。外国や首都サンチャゴの資本がサケの養殖場を作り先住民は漁場を追い出されました。そして養殖の影響で海温が上昇し生態系に影響を与え、本来彼らが食べていた魚介類がいなくなっているんです。——そのサケは日本で売られていますよね。ええ、八割は日本が輸入しているんです。やはりパタゴニアの高地にある雲霧林には年間五〇〇〇ミリ以上雨が降り着生植物がびっしり生えている。熱帯でなく亜寒帯の雲霧林は珍しいのです。希少な生きものが生息しているこの森に大型機械

が入り、道が造られ木材が運び出されます。チリでは、もともと森は共有地で皆が自由に入入りしていましたが、軍事政権の頃に土地は個人の所有に変わりました。各自に土地を分けるというのは表面にはいい政策に見えますが、現金欲しさにいい政策を見ますが、現金欲しさに売れる人が出て、外国資本に次第に買い占められました。隣の土地にさえ自由に占められなくなりました。隣に土地を売りたい人、守りたい人が仲違いをし、コミュニティが破壊されました。モンゴルでも同様に市場経済に代わり土地の私有化が始まりました。でも狩猟民族、遊牧民にとっては、移動を常としているわけですから弊害です。一〇〇キロ四方を皆で持っていたところを一キロ四方にしたら狩りになりませんよね。またカシミヤが羊毛より高く売れるので皆がヒツジを止めヤギを飼うようになり草が少なくなりました。かつては夏の間、学生が草刈りをし冬に備え蓄えていたのですが、市場経済に移ってからは自分たちでやれよ、ということになりました。ですから冬に雪が降ると家畜がたちまち餓死するようになったのです。

——カシミヤのセーターが安くなったと喜んではいられませんね。ところで「地球にやさしい」と巷で良く耳にしますが、人権とか環境とか愛国とかって、言う前にそれぞれが自分でやれよって思っています。実際にやっている人は言いません。地球にやさしいって声高に言う必要はない。アマゾンの先住民は、まさにスローライフな生活です。彼らの家でハンモックにごろんと横になって見渡すと、柱も屋根もゴザも籠も、むろんハンモックも、全てバナナやイモの皮などで作られているのがわかる。素材の不明なものは何もない。道具も全部自分たちで作る。半径五キロ以内で身の回りのものや食べ物も全て調達しています。地産地消です。

——今度はどこに行かれるのでしょうか？ 計算したら辺境はかり旅してもう五〇〇〇日です。そろそろ足元を見つめようと思いい、日本人のルーツを訪ねる旅を始めました。シベリアからサハリンを経て北海道という北方ルーツの取材は終わり、今は南方ルーツを始めたいです。

（取材・文／本位田暢子）

National Trust

ナショナル・トラスト ジャーナル 2006 NO.21

発行／社団法人日本ナショナル・トラスト協会
編集人／木原啓吉
編集委員／高増泰子 伊東 孝 谷口美和子
編集 & A.D.／本位田暢子

もくじ

巻頭インタビュー／関野吉晴さん
市場経済による環境の変化が先住民の暮らしを圧迫している。—— 1

寄稿 韓国でナショナル・トラスト法制定される。
自然と文化遺産保全の
新しい転機となる「国民信託法」—— 2
キム・クムホ 韓国ナショナル・トラスト自然遺産部長

不動産と環境付加価値 伊藤雅人 不動産鑑定士 —— 8

イベント日和
松戸の「関さんの森」に
レスター・ブラウンさんがやって来た！ 山田純稔 —— 12

トピックス
節目を迎えた飯能と小網代
開発圧からの脱却と展望 —— 14
○天覧山・多峯主山一帯（飯能市）が調整区域に。
○小網代が近郊緑地に指定される。

ナショナル・トラスト 『創世記』 連載第5回 岩本陽児 —— 23
1880年代の英国環境保全運動（3）

英国ナショナル・トラスト地紹介◆レッド・ハウス
人生は短く、芸術は長しーモリスの描く
理想の家は近代の住居の先駆けであった。 高階玲子 —— 34

トラスト最前線「特定非営利活動法人 阿蘇花野協会」 —— 39
美しい花野の再生・保全を進め、
絶滅が危惧される阿蘇の動植物を未来に。

協会からのお知らせ —— 40
第24回ナショナル・トラスト全国大会を飯田で開催／企業とのコラボレーション○トヨタウエイズグループオールグリーンキャンペーン寄付○住友信託銀行と遺言信託についての協議○ヨガマットの販売収益を寄付○ナシヨトラバッグを寄贈／ナショナル・トラスト活動を支援する税制度・法制度の政策提言活動を実施。／ナショナル・トラスト活動助成制度一第1期助成先が阿蘇花野協会に決定。／みどりの日表彰／エコプロダクツ展に出席／「Let's エコボランティア&エコ就職」に参加／総会・理事会の開催報告

第24回ナショナル・トラスト全国大会のお知らせ —— 52
ナショナル・トラスト活動助成第2期募集 —— 53
2005年7月～2006年6月／事務局便り —— 53

各地の活動 —— 64